

|||||||  
事例報告  
|||||||

## 大学ゼミ・地元企業ジョイント授業の取り組みに関する一報告

宮本 彩, 板垣 朝之

(長崎国際大学 人間社会学部 国際観光学科)

The report on career education in joint classes  
between university seminars and local companies

Aya MIYAMOTO and Tomoyuki ITAGAKI

(Nagasaki International University)

**Abstract**

This paper reports a part of the content and results of “Joint classes between university seminars and local companies” which is the new career education in 2019. The main activity of educational program in this joint class was visiting the company that manufacture automobile parts (side curtain airbags). As the pre-education for visiting the company, students wrote a resume. In addition, the post-training provided students with assessments from company staff and revisions to resumes. Based on these, the students made a review report of the whole joint class. Furthermore, students created materials for explaining the company through group discussions. From review reports of the 13 participated students, it was found that the understanding and motivation for job hunting was not high at the beginning of the class, but a sense of crisis for job hunting was evoked through the class. It can be inferred that feedback from companies staff an effective role in this change in student’s thinking about employment. From these results, it is important to utilize the experience and know-how cultivated in cooperation with local companies and local communities as well as universities. The effectiveness of career education will improved.

**Key words**

The career education, Visiting the company, The pre-education, The post-education

**要 旨**

本稿では、2019年度に新たにキャリア教育の1つとして立ち上がった「大学ゼミ・地元企業ジョイント授業」の紹介とともに、その成果の一部を報告する。今回紹介するジョイント授業の教育プログラムでは、自動車部品的一种であるサイドカーテンエアバッグを製造している企業への会社訪問が主な内容であった。また、会社訪問に向けた事前教育として履歴書の作成を行い、事後教育では企業担当者からの総評ならびに履歴書の添削を学生にフィードバックを行った。学生はそれらを基に授業全体の振り返りとして感想文を作成した。さらに、会社訪問にて印象に残っていることについてグループ討議を行い、学生による会社説明資料を作成した。本ジョイント授業に参加した学生13名の感想文からは、当初、就職に対する理解や意欲が高くなかったが、授業を通して就職活動に向けた危機感が喚起されたことが伺えた。この学生の意識の変化には、企業の方々からのフィードバックが有効的な役割を果たしていたと推察できる。このことから、大学のみならず、地域企業や地域社会と連携し、培われてきた経験やノウハウを活用することは、キャリア教育の効果を高める一助になるといえるだろう。

**キーワード**

キャリア教育、会社訪問、事前教育、事後教育

## I はじめに

近年、多くの大学でキャリア教育の必要性が認識され、初年次からキャリア形成のための授業が導入されている。本学においても正課内外でのキャリア教育の充実が図られてきている。

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」の答申が2011年に中央教育審議会から発表された<sup>1)</sup>。この答申を基に厚生労働省が大学等向けにキャリア教育実践講習のテキストを作成している<sup>2)</sup>。その中で、大学におけるキャリア教育の基本的な考え方が示されている。まず大学等の教育について、学生が自らの視野を広げ、進路を具体化し、それまでに育成した社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を、専門分野の学修を通して伸長・深化させていく段階として位置付けている。そして、大学等でのキャリア教育については、高校までのキャリア教育目標である生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度の育成と、これらの育成を通じた勤労観・職業観等の価値観の自らの育成・確立を基礎として、高等教育がわが国の多くの若者にとって社会に出る直前の教育段階であることを踏まえ、学校から社会・職業への移行を見据えたものとして充実を目指す必要性が指摘されている。そして、現在の厳しい雇用情勢や学生の多様化に伴う卒業後の移行支援の必要性を踏まえ、学生等がそれぞれの専門分野の知識・技能とともに、職業を通じて社会とどのようにかかわっていくのか、明確な課題意識と具体的な目標を持ち、それを実現するための能力を身につけられるようにすることが課題となっていると指摘している。

大学生のキャリア意識について、興味深い調査結果が示されているので、1つ紹介する<sup>3)</sup>。調査は、大手人材広告企業であるマイナビが2019年2月にWeb調査にて実施したものである。大学1年生ならびに2年生の学生が、どのように仕事や自身のキャリアを考えているかを明らかにするために行われ、男女の文系理系学生1,164名から回答を得ている。この調査の結果、自分がやりたい仕事については何らかのイメージがあるかという問いに対して、「具体的なイメージがある」と回答した割合は17.5%と低く、半数以上が「ぼんやりとしたイメージがある」と回

答している。また、「将来やりたい仕事」があっても今の大学の専攻を選びましたかという問いに対しては、「やりたいと思っていた仕事に就くのに役立つような専攻を選んだ」と回答した学生と「特にやりたい仕事はなかった」と回答した学生が約40%ずつと同程度の割合を示しており、大学入学後に職業に関する意識や知識を高めていこうとする学生も少なくないことがわかる。さらに、学生は将来の仕事を考えるとき、両親(37.9%)、大学職員・教授(29.4%)、友人(24.1%)からの影響を受けているという結果であった。この調査結果からも、大学におけるキャリア教育・職業教育の重要性がわかる。特に現場での経験を踏まえて仕事を選びたい学生が増えていることも注目すべき点である。

そこで、本稿では、2019年度に新たにキャリア教育の1つとして立ち上がった「大学ゼミ・地元企業ジョイント授業」の紹介とともに、その成果の一部を報告することとする。

## II 2019年度新規プロジェクト「大学ゼミ・地元企業ジョイント授業」

### 1. 授業の趣旨・目的

2019年度に新規プロジェクトとして立ち上がった「大学ゼミ・地元企業ジョイント授業(以降、ジョイント授業とする。)」は、本学人間社会学部国際観光学科の2年次学生を対象とするものである。ゼミナール(専門演習)単位で地元企業の方々との交流を通して、地元企業の実像や運営している人物像の実態に触れ、地元企業への興味を高めると同時に、地元企業への就活導線の確保をめざすものである。

その目的として、以下の7つが示され、2019年4月に授業への参加募集が行われた。

- ① 学生に出来るだけ早い時期から就職の具体的なイメージを持たせる。
- ② 学生に社会人とコミュニケーションをとる力をつけさせる。
- ③ 学生に地域で働き暮らすことを考えるヒントを与える。
- ④ 学生に企業経営管理職者の実像を知ってもらう。
- ⑤ 地元企業は、大学との接点を作るきっかけとする。

- ⑥ 地元企業は、今どきの若者の実像を知り、社内での若者対応や将来の採用活動方針策定のヒントとする。
- ⑦ 教員にも地元企業の実態を知ってもらい、将来の学生進路指導に役立ててもらおう。

## 2. 授業参画企業

地元企業から20社が授業への参画を表明した。参画企業の業種はホテル・宿泊業、建設業、小売業、製造業など多種多様であった。2019年6月に各ゼミナールに希望調査が実施され、地元企業とのマッチングが行われた。

### Ⅲ 教育プログラム内容の紹介およびその効果の検討

#### 1. 対象

国際観光学科の2年生のうち、著者の専門演習ⅠBを履修する学生13名が対象であった。

#### 2. 教育プログラム内容について

##### (1) 教育プログラム内容の計画・検討

企業とのマッチングの結果、自動車部品的一种であるサイドカーテンエアバッグを製造している企業とのジョイント授業が決定した。

企業側の担当者として、総務人事部の方とのメールでのやり取りののち、7月下旬に本学にて教育プログラム内容の計画・検討の会議を実施した。企業側の担当者に対して、専門演習担当教員から参加学生の大学での専攻や現時点での就職に関する意識等について説明を行った。その内容としては、部活動に励む学生が多く、大学での学修や就職に対する興味・関心は高い方ではないことや今回の授業で初めて就職について考える学生も少なくない状況であることであった。これら現状を踏まえ、工場見学を含めた会社訪問をメインプログラムに据え、就職について考えるきっかけとなるような取り組みを前後に実施していくこととなった。

##### (2) 教育プログラムの実施

###### ①事前教育

会社訪問に行くまでの事前教育として、専門演習ⅠBの授業時間2コマを利用して、履歴書の作成に

取り組んだ。1コマ目の授業にて正しい履歴書の作成についてのレクチャーとともに、履歴書の項目である「学生生活を通じて得たこと」、「自己PR」「志望動機」の作文を行った。2コマ目では、担当教員から各学生が記載した内容についてのフィードバックを行い、書き直しを行った。そして、書き直した文章について学生同士による相互指導を行い、最終決定したものを清書した。

###### ②会社訪問

会社訪問での流れは、a.会社説明(30分)、b.工場見学(30分)、c.講義(30分)であった。

###### a. 会社説明

総務人事部の方から、就職採用等で実施される会社説明会のプレゼンテーションを基にした業務の説明がなされた。メイン製品の詳細な説明や製造工程、業務内容に加え、研修制度や福利厚生などの説明を受けた。

###### b. 工場見学

会社説明を受けた後、2班に分かれて工場内の見学を行った。なお、工場内に立ち入る前に、見学の際の注意事項についての説明があり、異物混入を防ぐための帽子着用と手荷物チェックを受けた。

工場見学では製造工程の順に、作業現場にて使用している専用機械の特徴や業務内容等の説明を受けた。

###### c. 講義

総務人事部の方から、自動車業界の構図やBtoBマーケティングについて、さらに、就職活動のポイントについての講義を受けた。

会社を選ぶポイントとして、「勘違いや思い込みを防ぐには数字で考える。」や「会社は規模じゃない。金額ではなく率で考える。」といったアドバイスがあった。また、就職活動に向けた助言として、「サヨナラ満塁ホームランは起こらないので、コツコツ取り組む」、「できる準備は全てやる」、「体力に自信があるだけでは採用には結びつかないので、自分自身の強みを作る・見つける」ことの重要性の説

明がなされた。さらに、人生の先輩として「働くことの意味や働き甲斐については、いくつになっても答えは見えないもの。おそらく、年々変わっていくものなので、その時々目標に向かって頑張ることが大切」というお話をいただいた。

### ③事後教育

会社訪問の事後教育として、専門演習 I B の授業時間 1 コマを利用して、事前教育ならびに会社訪問の振り返りを行った。振り返りを実施するにあたり、対応いただいた社員の方からの総評を学生に伝えた。また、訪問時に提出した履歴書が総務人事部の社員の方のチェックを受け、個別アドバイスを加筆して返却いただいたので、それも学生に返した。学生は、社員の方々からのフィードバックを踏まえて、250 字以上の感想文を作成した。さらに、会社訪問にて印象に残っていることについてグループ討議を行い、学生による会社説明資料を作成した。

グループ討議において出された意見は主に以下のようなものであった。なお、これら意見を基に図 1 の会社説明資料を作成した。

- 異物混入のチェックが厳しかった。
- 製品の点検が何度も行われていた。規格外の製品はすぐに廃棄すると言っていた。
- 生糸の状態から製品が作られており、糸の状態でも点検していると言っていた
- 機械と人がコラボすることで作業の効率化が図られていた。  
例えばレーザーで製品を裁断していたり、製品を重ねて折るなどの重い作業は機械が行っていた。
- 長崎県松浦市という田舎にある工場から世界に向けて製品が輸出されている。  
世界にも誇れる製品と企業である。
- 工場内の通路が広く、大きな自動扉があるなど安全に働ける環境であった。
- 休みもしっかり確保されているということだった。
- 女性社員も工場内で勤務していた。
- エアバッグは化学反応で一気に開くということを初めて知った。


### 3. 教育効果の検討

参加学生の感想を表 1 に示した。学生の感想文が

**学生が紹介する  
住商エアバッグ・システムズ株式会社**


**生糸からサイドカーテンエアバッグを製造  
製品は長崎県松浦市から世界へ**

**品質と信頼性を追求する姿勢がすごい!**

 工場見学をさせていただき、品質管理の厳しさを感じた。その姿勢が信頼へとつながると感じた。

- 異物混入を防ぐために工場内に入る前に身なりを整えるなど、準備もしっかりなされていた。
- 機械でチェックしたものを、さらに人の目でも点検するなど、徹底して品質管理が行われていた。
- 最新鋭の機械が備えられており、人には負担が大きい作業を機械が補っていた。

**働きやすく、やりがいを感じられる職場環境!**

 工場内は広い通路や大きな自動扉などがあり、働く人の安全が確保されているなど感じた。会議室の椅子さえも高機能で、座り心地が良く、働く人が快適に仕事ができるように考えられていた。休日がしっかり確保されていたり、親睦会などがあったり、仕事以外の時間も考えられている。働いていらっしゃる皆さんが、とにかく真剣で、1つの製品のためにそれぞれの役割を全うされている。

長崎国際大学2年生ゼミナール・地元企業ジョイント授業 参加学生・教員作成

図 1 グループ討議を基にした会社説明資料



ら、ジョイント授業を通して、学生の就職活動に向けた危機感が喚起されたことが読み取れる。この点は、大きな教育効果といえるだろう。

前述したとおり、教育プログラムの計画・検討段階では、参加学生の多くが部活動に励む学生であることもあり、大学での学修や就職に対する興味・関心は高くない印象であった。実際に、事前教育の履歴書の作成をしている際の学生の取り組みも、消極的な印象であった。しかしながら、会社訪問や企業の方々からの履歴書のフィードバックなどの交流や指導により、学生自身が取り組み姿勢についても振り返り、反省できたことで、就職活動に向けた危機感が喚起されたものと推察される。さらに、参加した学生の中には、感想文内で働くことへの不安や学生生活から見直す必要性について言及している者もいた。これらのことから、学生にとって、反省も含めて多くの気づきが得られる授業であったといえるだろう。

#### IV さいごに

本稿では、2019年度に新たにキャリア教育の1つとして立ち上がった「大学ゼミ・地元企業ジョイント授業」の紹介とともに、その成果の一部を報告してきた。大学2年生におけるキャリア教育・支援の在り方について、ジョイント授業に対する学生からの感想文等を踏まえて検討していく。

大学2年生の段階では、まだ就職活動に向けた意欲や知識・理解に乏しいといえる。そのため、就職活動の対策を念頭においたキャリア教育・支援ではなく、将来、社会に出て働くことを見据えて、主体的に自分の人生について考えさせることが重要といえるだろう。社会で必要とされる能力について理解を深めることや、自分自身の価値観ならびに職業観について考えさせることが教育の目標・目的になってくるだろう。その際、大学のみならず、地域企業や地域社会と連携し、培われてきた経験やノウハウを活用することは、キャリア教育の効果を高める一

表1 学生13名の感想文

	感想文
1	今回、エアバックの製造現場という、あまり見るができない工場内の見学をさせていただいた。初めて知ることばかりでとても新鮮だった。また、会社の方からエアバックのことだけではなく自分たちが4年生になってから行う就活などでの大切なことや履歴書について、企業側から見たポイントを教えていただいて凄く勉強になった。当たり前なことだけど、挨拶だったり、笑顔だったり、自分の個性を相手にどう良く見せるかがどれだけ大変なのかがわかった。まだ就活として経験はしていないけれど、それらのことを先に知ることができたので、これを自分の就活に生かしていきたい。
2	初めに履歴書の作成に向けた取り組みをして、自分の字の汚なさや文章力に気づいた。履歴書の写真は家にあるやつを急いで貼ったので、そのあたりもしっかり指摘されてしまった。写真は第一印象なので、次からはスーツで表情を明るく撮りたいと思った。あと、履歴書にはなるべくマイナスな印象になるような事は書かないようにすることも大切だとわかった。工場見学に行き、大学生じゃなく高校生と思われるくらい落ち着きがなかった。面接官は入った瞬間からいろいろなところを見ているということなので、面接場所付近から身だしなみや行動に気をつけたいと思った。就活前にこのような体験ができて、修正や良い所など反省点がみつかったので、この経験を活かしていきたいと思う。
3	私は今回のジョイント授業を通して、自分が社会に出たら何も知らず行動出来ないという事が改めてわかった。まず、履歴書を書くことからだったが、自己アピール、学生生活を通して得たこと、そして志望動機など、自分が就職するか分からない企業だからと思ってしまい、全く書けなかった。このままだったら、自分が就職したい企業の面接に行った時など、臨機応変に対応できないなと感じた。また、実際に企業体験に行き、企業の方達が働いているところを見て、自分は毎日しっかり働けるのだろうかかと不安に感じた。ちゃんとした学生生活を送らないと、企業に行き、ちゃんとした社会生活を送れないと感じたので、これからはまず、学生生活を見直していきたい。
4	大学生になって初めて工場見学に行った。扉を開けると耳が壊れそうなほどの騒音だったが、そういう中でも仕事をしている人がいることを知ることができた。作業をしている人は喋っている人は少なく、集中している印象だった。社員の人からの会社説明の話では難しいことがたくさんあった。入社している人がどういう保障で働いているのか、どういった時間や給料手当かを教えてもらった。こういった経験をして、社会に出るための準備がまだできてないのだとわかった。ワイワイやる場所ではなく自分の受け持った仕事をこなすことが大事になってきて、1人が狂えば他の人にも迷惑になってくるので、いわゆるチームプレイで仕事をやっていくのだとわかった。立派な社会人になるためにこれからは自分のやるべきことをしっかりとこなして大人の階段を上ってほしいと思う。

	感想文
5	履歴書を自分の言葉で考えて書くのはとても大変な事だということがわかった。どうすれば自分の言葉で入りたい企業に気持ちを伝えるかというのは難しいものだったが、今回、企業の方に見ていただいて、良いアドバイスももらった。工場見学をして、そこで働いている方々は、自分のやるべき事をしっかりと行っていた。今の自分みたいに何に対しても中途半端な気持ちで生活していると社会では通用しないのだということを実感した。就職すると言うのはとても難しいことだと分かったので、今のうちから社会に入るための力を身につけておきたいと思った。
6	ジョイント授業で会社に行き、会社説明を聞いて、その会社のことがよくわかった。社会人の方たちは、自分たちみたいにヘラヘラしていなかったし、ちゃんとしている人ばかりで、みんながすごくたくましい人たちに見えた。工場見学をして、1つのエアバックにすごい量の糸や物を使っていてすごく驚いた。この会社では運転席の前にあるエアバッグじゃなくてサイドエアバッグを作っている説明を聞き、頭がいいなと思った。まだサイドエアバックが付いていない車があるのでこれからすごく伸びる商品に間違いはないなと思った。
7	実際にジョイント授業に参加して、働くことの重大さや責任感、やりがいなど、自分が何をしたいか、どんな職につきたいかを真剣に考えていかないといけないと感じた。今やりたいことは特になく、曖昧な生活になっているので、選択肢を絞りつつ、広くそして深く知識を深めて、就職活動に臨んでいきたい。また、今回のジョイント授業で勤務形態や休み、保険等の詳しい会社の内面までも知ることができたので、このようにジョイント授業を開いて、受け入れてくださった企業の関係者の方々に感謝したい。この機会をこれからの就職活動の参考にし、自分の中で満足いく結果を出していきたい。
8	私は今回のジョイント授業に向けて、初めて企業向けの履歴書を書いた。自分がこれまでに学んだことや長所などを特に企業にアピールしないといけないけど、実際書くとなると自信を持って書けることが少なくて困った。もっと、今自分のやっていることを一生懸命に頑張らないと何も学ぶことはないなと思った。工場見学をして、心に残っている言葉は、信頼を得ることが大事だということです。お客様に物を提供する側は少しのミスも許されないため、出荷する前に何回も人の目で見て点検したりしていて、ここまでやらないと人の信頼を得ることはできないのだなと思った。私も何かをやるときは中途半端にせず、最後までやり遂げたいと思った。これから企業説明会などに参加することが多くなっていくと思うけど、自分の興味があるものを見つけて参加しないと、意味の無いものになると思うので、半端な気持ちで参加するのではなく、自分はそこに興味がある、そこで働きたいという思いを持って、参加していきたいと思う。
9	私は、今回のジョイント授業で、初めて履歴書を作成し、エアバッグ工場に実際に行き、工場見学や会社説明を聞いた。履歴書の作成では、自己PRと志望動機などのアピールをしないといけない欄があり、それを書くのにとっても苦労した。特に志望動機は、実際の経験を具体的に書いて、就職してどのような形で役立てたいかを書かないといけないので、難しいと感じた。履歴書は分かりやすく、具体的に、多めに書かないといけないと学んだ。次に工場見学や説明は、実際にどのような仕事をして、どのような会社のシステムなのかを知ることができた。私はまだ会社という仕組みがよくわかっていなかったが、今回の説明でよくわかった。私は今回のジョイント授業で、実際にこのような行程で就職活動を行うということ学ぶことができたので、自分も希望の会社に内定をもらえるように今回の経験を活かしていきたいと思った。
10	企業を中まで入って説明や見学したのは初めてだったのでとても新鮮だった。今回はエアバッグの会社でしたが、どういう会社なのか、仕事内容などわかりやすい説明を受けた。びっくりしたのは休みが思ったより多かったことだ。会社の中を見回って社員の方を見ると本当にやりがいを感じながら仕事をしているのだなと思った。工場内では皆さんプロだなと感じた。また、この機会で自分がこれから何をしたいのか、何にやりがいを感じるのかを考えさせられた。そして会社を選ぶ時に何を大事にすべきかを学んだ。このような機会が増えればもっと自分について考えられると思った。
11	今回ジョイント授業を受けてみて感じたことは、就職活動の準備がまだまだ足りないなということである。履歴書を書くだけで手こずっていたので、来年から始まる就職活動が少し不安になったが、今回、履歴書を書く上で重要なことを少し理解することができたかなと思う。履歴書で自分らしさのアピールやその会社をしっかりと調べ、企業理念を理解した上で履歴書を書く必要があるということも分かったので一年後の就職活動に活かしていきたいと思う。また、実際に働く現場を見る機会は少ないと思うので現場の雰囲気などを見ることができていい経験になった。
12	今回の授業では、履歴書を書きましたが、履歴書の書き方にもいろいろとあり、初めて知ったこともあった。今までは、何となくで書いていたところもあったが、これから先、履歴書を書く機会が増えてくるし、ひとつひとつ細かい部分も覚えていかないといけないと思った。企業訪問については、実際に現場に行くことで感じ方も違った。初めて工場内を見ることができたこととても良い経験になったと思う。職業は数多くある中、今回行った企業はとてもいい場所だと感じた。早い時期に何になりたいかを決めて、実際に行動していかなくては行けないと思った。
13	私は、今回の工場見学には部活動の試合と重なり、行くことができなかったが、履歴書の作成を行って、自己アピールの難しさや文章構成、提出する企業に対する配慮など、私自身の能力がまだまだ足りないことを実感した。また、就活に対する意識を変えなければならないことや、他の学生に出遅れないように少しずつ就活をする準備をしなければならないと思った。

助になるといえる。これら活動を通して、学生自身が自己の日常生活や能力、学修へと目を向け、行動へと移行していけることが理想である。そのためには、単発的な取り組みにせず、継続的な取り組みにしていく必要があるといえる。今回のジョイント授業においては、事後教育の効果が非常に高かった印象である。特に企業の方々からのフィードバックは有効であったと考える。今後は事後教育も含めてプログラムを企画・作成していくことが重要となるだろう。

### 謝 辞

ジョイント授業の実施にあたりご協力をいただいた住商エアバッグ・システムズ株式会社の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。なお、ジョイント授業は COC+事業の一環として実施した。

### 参考文献

- 1) 中央教育審議会 (2011) 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申)
- 2) 厚生労働省 (2016) 「平成28年度キャリア教育実践講習(大学等向け)テキスト」
- 3) マイナビ (2019) 「2019年度マイナビ大学生低学年のキャリア意識調査」  
<https://www.mynavi.jp/wp-content/uploads/2019/03/%E3%80%90%E8%B3%87%E6%96%99%E3%80%912019%E5%B9%B4%E3%83%9E%E3%82%A4%E3%83%8A%E3%83%93%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E7%94%9F%E4%BD%8E%E5%AD%A6%E5%B9%B4%E3%81%AE%E3%82%AD%E3%83%A3%E3%83%AA%E3%82%A2%E6%84%8F%E8%AD%98%E8%AA%BF%E6%9F%BB.pdf>